

江戸優り

佐原の大祭

秋祭り



令和7年10月 10日(金) 11日(土) <年番引継行事> 12日(日)

国指定重要無形民俗文化財・ユネスコ無形文化遺産

7月と10月の年2回、市内が熱気であふれる佐原の大祭は、約300年の伝統を引き継ぎ、国の「重要無形民俗文化財」に指定されています。夏は10台、秋は14台の勇壮豪華な山車は、哀調漂う佐原囃子の音と共に、時に優雅に、時に豪快に町の中を曳き廻されます。

佐原囃子

山車の運行に合わせ、時に華やかに、時には優雅に演奏される佐原囃子は、情緒的なメロ

ディーが特徴で、楽曲のレパートリーも豊富。使用される楽器は、篠笛・大鼓(大皮)・小鼓(鼓)・附締太鼓(ツケ)・大太鼓・鉦の6種類と数多く、和楽器のオーケストラとも呼ばれています。



のの字廻し

祭り期間中、6箇所の指定場所で随時ご覧になれます。「のの字廻し」は乱曳きを行っている山車が指定場所を通過する際(不定期)に行います。「のの字廻し」とは、重さ3~4トン、高さ7メートルにも及ぶ山車を、向かって左前の車輪を軸として、筆で「の」の字を書くように数回転させるもので、豪快な曲曳きです。

山車上部の大人形があたかも能を舞うが如く、ゆっくり回転させることが上手とされています。



佐原の大祭 秋祭り

大人形

江戸時代後期から昭和初期にかけて江戸・東京で活躍した名工、鼠屋福田万吉、安本亀八、大柴護豊などの人形師たちによって制作された身の丈5メートルにも及ぶ大人形が山車の最上部に飾り付けられています。現在ではこのような大人形をつくれる職人はいないと言われ貴重な文化遺産となっています。

【山車説明】

- ①山車の制作年代
- ②飾り物の制作年代
- ③飾り物の制作者
- ④額の文字
- ⑤担当の下座連

山車がどこにいるか知りたい！

山車の現在地や広場・休憩所・飲食店等の確認はデジタルMAPが便利です



源頼義

みなものよりよし



「下宿」

- ①明治8年(1875年)
- ②明治32年(1899年)
- ③古川長延
- ④誠意(せいい)
- ⑤分内野下座連

「源頼義」は、平安時代の武将で、源氏の勢力を東国に植いつけた源氏の棟梁です。東北地方の戦いの中、山中で岩を砕き水を得たという故事を表しています。香取神宮に三本杉の伝説が残っています。

大楠公(楠木正成)

だいなんこう くのすのきまさしげ



「東関戸」

- ①昭和10年(1935年)
- ②昭和10年(1935年)
- ③大柴護豊
- ④純正(じゅんせい)
- ⑤東関戸連中

「大楠公」とは南北朝時代の武将「楠木正成」のことです。皇室に対して忠誠を尽くした忠臣として知れ渡ります。日本画家・横山大観氏が描いた「楠木正成の像」を参考に、東京の大柴護豊氏により制作されたものです。

瓊瓊杵尊

にぎのみにこと



「西関戸」

- ①昭和10年(1935年)
- ②昭和12年(1937年)制作
- ③鼠屋(昭和15年飾付)
- ④神威赫奕(しんいかくえき)
- ⑤雄風會

日本の神話にいう「天孫降臨」、即ち、天照大御神の命をうけ三種の神器(肩に背負うは「天叢雲剣・草薙剣」、首飾りの「八坂瓊の勾玉」、両手に抱え持つ「八咫の鏡」)を捧持した我国の肇国の祖神であります。

諏訪大神

すわだいじん



「上新町」

- ①昭和11年(1936年)
- ②江戸時代
- ③上新町区
- ④敬神(けいしん)
- ⑤鹿嶋芸座連

享保年間に、諏訪神社祭礼の神輿御神幸を束ねる心殿居士により、神社の御祓箱を飾り付け、年番を努める関戸町に付く二番に定められました。これが古例となり、今でも必ず関戸の山車の後に付く事になっています。

日本武尊

やまとたけるのみこと



「北横宿」

- ①明治8年(1875年)
- ②明治8年(1875年)
- ③鼠屋
- ④愛国(あいこく)
- ⑤源囃子連中

第十二代景行天皇の皇子。浦賀水道では海神が起こした暴風に巻き込まれ、後の弟橘姫が身を捧げ、波が凪ぎ房総半島へ渡れました。東国を平定し後、足柄山の坂本で、弟橘姫を慕い「吾妻はや」と嘆いている姿です。

浦嶋太郎

うらしまたろう



「下新町」

- ①江戸後期
- ②明治12年(1879年)
- ③鼠屋
- ④恩波(おんぱ)
- ⑤牧野下座連

日本の昔話の主人公「浦嶋太郎」が子どもに教えられている亀を助けると、礼に竜宮城へ連れられて歓待されました。乙姫にももらった玉手箱を持ち、龍宮城から陸に乘せてきてくれた亀と別れの場面を表しています。

牛天神

うしてんじん



「新上川岸」

- ①令和5年(2023年)9月
- ②江戸後期
- ③不詳
- ④上河岸(うわがし)
- ⑤潮風會囃子連

「菅原道真」をモデルにした人形浄瑠璃の演目から、白太夫が曳く牛の背に乗り、安楽寺へ梅の花を見に行く場面を飾り物にしています。道真公は平安時代に活躍した学者・政治家で、天神様と親しまれています。

仁徳天皇

にんとくてんのう



「南横宿」

- ①明治8年(1875年)
- ②大正14年(1925年)
- ③三代目 安本亀八
- ④高きやに登りて見れば(たけのぼり)
- ⑤あらく囃子連

日本の第十六代天皇。高台から見渡すと民家から炊飯の煙が立っていないことから苦しい生活をさと、租税を免除したとされています。生き人形制作の名人と言われた、三代目安本亀八の大作です。

源義経

みなものよしつね



「上宿」

- ①昭和53年(1978年)
- ②昭和55年(1980年)
- ③四代目 面六 田口義雄
- ④智勇(ちゆう)
- ⑤寺宿囃子連

平安時代の武将で、幼名は牛若丸です。壇ノ浦で源平の戦いの勇姿を現しています。鞍馬での修行、五条大橋、八艘飛び、の話は有名で、数々の伝説を残し、後世の人々に最も愛される武将の一人です。

小野道風

おののとうふう



「新橋本」

- ①明治27年(1894年)
- ②明治4年(1871年)
- ③鼠屋
- ④雲龍(うんりゅう)
- ⑤野田芸座連

平安時代の能書家で、藤原佐理、藤原行成とともに三蹟の一人です。繰返し柳の枝に飛びつくカエルを見て励まされたという逸話をモデルにしています。正面の額は、小野道風の真筆と伝えられる「雲龍」の文字を彫ったものです。

小楠公(楠木正行)

しょうなんこう くのすのきまさつら



「下分」

- ①明治28年(1895年)
- ②昭和10年(1935年)
- ③大柴護豊
- ④下分(しもわけ)
- ⑤潮来芸座連

「小楠公」とは、南北朝時代の武将「楠木正成」の子供「楠木正行」です。姿は、戦の前に如意輪寺の扉に、辞世の歌を矢尻にて「かえらじとかねて思へば梓弓、なき数に在る名をぞとどむる」と書き記している処を表現しています。

神武天皇

じんむてんのう



「仲川岸」

- ①明治29年(1896年)
- ②明治31年(1898年)
- ③不詳
- ④博如天(ひろきとてんのごとし)
- ⑤佐原囃子連中

「神武天皇」は、天照大御神の五世孫、瓊瓊杵尊の曾孫、日本の初代天皇です。場面は三種の神器を受け継ぎ、神武天皇御即位の御姿を写し「日本の夜明け」を象徴されたものと言われている。

建速素盞鳴尊

たけはやすさのおのみこと



「下川岸」

- ①明治31年(1898年)
- ②江戸後期
- ③不詳
- ④宏遠(こうえん)
- ⑤清水芸座連

「建速素盞鳴尊」は皇室の祖神といわれる天照大御神の弟で、日本神話に登場する神です。人形は、出雲の国で八岐の大蛇を退治して、櫛稲田姫を救った勇壮な姿を現したもので、江戸時代の作です。

鎮西八郎為朝

ちんせいはいちろうたためとも

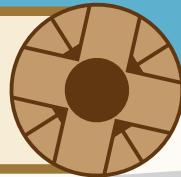


「上中宿」

- ①嘉永5年(1852年)
- ②明治15年(1882年)
- ③鼠屋伝吉
- ④富士山の彫刻
- ⑤和楽会

平安時代の武将「源為朝」は、身長が2メートルもあり、強弓の使い手で、九州に追放された後、一帯を制覇して「鎮西八郎」を名乗りました。保元の乱に敗れて伊豆大島に流され、攻め寄せた軍船を一矢で沈めたといわれています。

佐原の大祭 秋祭り
案内マップ



佐原の大祭デジタルMAP

山車がどこに
いるか知りたい！

山車の現在地や広場・
休憩所・飲食店等の
確認はデジタルMAP
が便利です



破線エリア内は11日(土)の
「幣台年番引継行事」予定エリア
と当日のみの追加交通規制

シャトルバス
乗降場

佐原駅

シャトル舟
乗降場

「シャトル舟」 9:30 ~ 20:00 (休憩 12:00~13:00)
片道券 大人 800 円・小学生 400 円
※天候により運航見合わせ、中止となる場合があります。

「シャトルバス」 9:30 ~ 21:00
片道券 大人 300 円・小学生 200 円
往復券 大人 500 円・小学生 300 円

利根川河川敷臨時駐車場からお祭り区域まで運航(行)されます。

11日(土) 山車巡行整列順

- 下川岸区
- 上中宿区
- 下宿区
- 東関戸区
- 西関戸区
- 上新町区
- 北横宿区
- 下新町区
- 新上川岸区
- 南横宿区
- 上宿区
- 新橋本区
- 下分区
- 仲川岸区

佐原の大祭夏祭り
は八坂神社を中心とした
区域で行います。

八坂神社
(夏祭り7月)

香取神宮
忠敬橋より
香取神宮まで
約3km

日程	時間	イベント	会場
10日(金)	10:00~ 12:00~ 15:00~ 随時	山車乱曳き 年番前後3町代表巡行 御神輿の渡御 の字廻し、手踊りの披露	各町内 NTT付近~ 諏訪神社~諏訪神社御旅所 佐原信用金庫ステージ広場・随所
11日(土)	10:40 12:10~ 15:30 16:30~ 17:20~ 18:20~ 随時(夜間)	山車整列完了(第一定位置) 通し砂切、山車巡行(揃い曳き) 山車整列完了(第二定位置) 年番引継神前行事 年番引継幣台行事(通し砂切) 各町順次曳き分け 手踊りの披露	万代橋付近~コミュニティセンター付近 第一定位置 → 第二定位置 入船橋付近~国道356号付近 諏訪神社御旅所 入船橋付近~国道356号付近 入船橋付近~コミュニティセンター付近 随所
12日(日)	9:00~ 10:00~ 随時	御神輿の渡御 山車乱曳き の字廻し、手踊り披露	諏訪神社御旅所~諏訪神社 各町内 佐原信用金庫ステージ広場・随所

- 凡例
- トイレ
 - 身体障害者対応トイレ
 - ゴミ箱
 - ゴミ箱 ※11日(土)のみ設置
 - 喫煙所
 - 高速バス停留所
- の字廻し指定場所(随時)
- 物産広場・休憩所
- 飲食物の販売のほか、休憩の場として利用できます。
(マップ中 ■)
- ※お祭り区域内での小型無人飛行機(ドローン)等の
持ち込みと飛行はご遠慮ください

※周辺道路への違法駐車、近隣店舗等への迷惑駐車はおやめください